

## 読谷村 共創・共学ワーケーション

「読谷村 共創・共学ワーケーション」は、関係人口ひいては共創人口の創出と地域の人材育成を目的にしたプログラム。Airbnbが飛行機やレンタカー、ワークスペース、Airbnbリスティングでの宿泊費用などを対象に、1団体あたり45万円を限度に支援し、実施した。結果、期間中2度以上にわたって定期的に村を訪れた関係人口は26人以上。参加した4団体は地域の方々との交流はもとより、それぞれに新たなプロジェクトも立ち上げ、名実ともに共創共学が進んでいる。

### 域外のアイデアと 域内のリソースが響き合い 共に育む地域の新たな価値

地域が大切にしてきた文化の  
新たな形を提案

本ワーケーションを現地で企画した「マッジラ沖縄タイムス」は、コワーキング/シェアオフィス「[howlive]」の開発・運営、沖縄でのワーケーション受け入れ、そしてオフィスデザイン事業を軸にしている地元企業だ。沖縄でのホームシェアリングの普及に相互協力していくため、エアビアーンドビー・パートナーズに新たに参画した。「さまざまな経歴や価値観を持つ方々がこまごまで一同に集う機会は少なかったのが貴重でした。働き方の幅が広がり、多様な人々と出会えたことが財産です（マッジラ沖縄タイムス・金子氏）」

本ワーケーションを機に、新たに生まれたプロジェクトは主にふたつ。ひとつは、映画「タイアンドナイト」などの脚本家・小寺和久氏と、Z世代のアイデア出しをリードするイノベーター



多くのおとなたちが見守る中、村に育つさまざまな年代の子どもたちも、三線など沖縄の伝統楽器を片手に現代版朗読劇を披露した



株式会社マッジラ沖縄タイムス  
金子智一氏

’77年東京生まれ。マッジラ沖縄タイムス代表。沖縄県内でコワーキングスペース「[howlive]」を5店舗運営。沖縄でのワーケーション体験をサポートしている

もうひとつは、フリーランス農家サロンを運営する小葉松氏が地元企業と連携し、開催した「農業×地域×ワーケーションin沖縄読谷村」。全国各地で活躍するフリーランス農家が集まり、農を通して地域を知り、人につながる新たな形のワーケーションの実証を行うことができた。



第一線で活躍する有名脚本家を軸に、域外の若者たちや地域のおとな、子どもたちも一緒に、地域の宝を掘り起こして伝えた

シオンチームドットオムの富田氏が中心となった「現代版読谷村民話よんでみたーんそん?」。村に伝わる5000以上の民話の中からピックアップしたものをアレンジ。子どもたちも楽しく触れられる朗読劇に仕立てた。選ばれた4団体がつながり、村の子どももおとなも混じり合い共創することで、地域が大切にしてきた芸術の新たな形を提案することに成功した。

## 読谷村 学びと未来

### 学んだこと

#### 域外プレイヤーを域内にもたらすのもホスト

選出したワーケーション参加4団体のうち3団体は、もともと村のAirbnbホストとつながりがあった。彼らは普段なかなか出会えないような才能や、地域に必要なソリューションを提供してくれる人材を地域にもたらす役割も担っている

### 未来へ向けて

#### Airbnbホストと行政との連携を強化

今後はAirbnbホストと行政との交流やつながりを強化し、地域に必要なプレイヤーを紹介したり、ローカル情報や体験などの情報を共有することでよりレベルの高い体験型観光を提供、地域経済への貢献を高められる取り組みを共に目指す

## 読谷村の SUPER HOST

### 相入れないものを受け入れることを学びたい

HACOBUNE 松村理恵さん



「バックパッカーで母親でもある自身のバックグラウンドを反映させた宿の造りになっています。赤ちゃん、ご老人、ペット……ゲストのメンバーの中におけるいちばんの弱者に優しい造りであればいいと思います、2軒あるうちの1軒はバリアフリーです。Airbnbのリスティングは、ファシリティではなく、ホストの個性がダイレクトに反映される宿泊形態。それこそが価値で、いちばん好きな側面です。そしてゲストとのつながりは最大のモチベーション。大切な友人も何人かでき、そのことが自己肯定感につながっています」

松村さんは本年より、世界中のホストの中から数名だけ選ばれるアドバイザーボード・メンバーとして活躍する予定だ。



## 豊かなコンテンツを深掘りできる ワーケーションの可能性

日本のローカルでは珍しく、高めの出生率やUターン、移住者の多さから人口が増加傾向にある沖縄県読谷村。地域にもともとある豊かな観光コンテンツに新たな価値を付加してくれる域外の才能とともに、ずっと住みたくなる、訪れたくなる場所を共創する。

## 地方創生 with Airbnb

### 沖縄県 読谷村

課題の整理

- 新たな人流をつくりたい
- 若者への施策を強化したい
- 地域社会と経済を再構築したい

課題解決に向かうには?

域外のゲストと域内プレイヤーとをつなげてくれるAirbnbホストと自治体、商工会、観光協会などみなで互いに顔が見える関係性を育み、意見交換し合える環境をつくるのが、持続可能な取り組みとして重要な効果的といえる

### 村らしい新たな価値を 共に創造し学び合う

豊かな伝統文化・芸術と世界に誇る美ら海を懐く読谷は、県内でも有数のスポットである一方で、禍の煽りは大きく、地域経済や社会の再構築が課題になっている。そして、それを支える人材の確保に向けた関係人口の創出や、地域の若者へのサポート、働き方改革を踏まえた土壌づくりなどが望まれている。

具体的な取り組みとして企画・実施されたひとつが「読谷村 共創・共学ワーケーション」。地域との交流や人材育成に協力的なワーケーション参加団体を県外から呼び込み、彼らと地域社会とがその地域らしい新たな価値を共に創造（共創）し、参加団体とエアビアーのホストを中心とした地域住



小葉松氏主催の「農業×地域×ワーケーションin沖縄県読谷村」。村の主要な産業のひとつである「農業」の分野において、地域内外の共創で新たな取り組みが実施できたことは、今後の布石になりそうだ



民とが共に学び合う（共学）最初の機会が生まれた。「村外のクリエイターや若者たちが地域の現状と課題を把握し、彼らの視点で村の宝を深掘りして磨いてくれたことに驚きました！まさしくニーチェの『汝の立つ処深く掘れ、そこに必ず泉あり』でした（企画政策課・城間氏）」

期間中は、参加団体が地元ラジオに出演したり、参加4団体と自治体、商工会、観光協会、エアビアーのホストが一堂に介した交流会を催し、その模様が地元新聞の取材を受けたりと、メディアを巻き込みながらその熱を周辺地域にも伝えていった。蓋を開けてみれば参加4団体中、実に3団体が村のエアビアーホストと以前からつながりがあったことがわかり、そのことが以後の新たなプロジェクト立ち上

### 読谷村 企画政策課 城間康彦氏

’69年読谷村生まれ。小・中・高と地元で過ごす。現在、読谷村役場 企画政策課 課長。目指すテーマは、地方創生を通して村民や関係人口の方が笑顔になること



「新たに何かをつくるのではなく、今あるものを見つけて磨く大切さを学べました。俯瞰的かつ柔軟な発想と行動力が、今後の地域づくりには大切。今回たくさんの示唆に富んだご提案をいただいたので、一過性に終わらない共創事業に取り組んでいきたいです（城間氏）」

「新たな形を進行している。磨き加えられた一因とも思える。結果、地域との交流のみならず、村に伝わる民話を現代版としてリモデルして発表したり、農業を通じて人と出会った地域を知るワーケーションが実施されるなど、豊かな歴史と文化、芸術、自然と産業を持つ読谷村ならではのコンテンツの可能性がさらに深掘りされる形を進行している。